

「この人 47」

井野ひろみ 63歳 兵庫県

編集部 俳句を始められたのは？

井 野 母が若い頃から俳句をしておりまして、度々「俳句はいいよ」と勧められていました。母の生前中は、その気にならなかったのですが、亡くなって五年くらい経った時に、形見にもらっていた使い古した歳時記を見まして、始めてみよう一念発起しました。朝日新聞で見た「滑稽」の文字に、肩肘張らないイメージを思い、入会しました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

井 野 「ニコッ」でなく、「ニヤッ」と口元がほころび、「そうそう」と丸ごと納得できるおもしろ味ですね。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

井 野 「ニヤッ」となる句を作れるように、周りを観察するようになりましたので、毎日の生活が楽しくなりました。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

井 野 閃きだと思います。と言いましても、なかなか簡単には閃きませんねえ。

【代表句】

帰省の子突如現われ長居する
夫婦げんか暑さ二倍で行き場なし
親の脛卒業旅行含まれて
私と同じセーターマネキンが
若者も師走と聞いて「早っ」と言う